日本共産党青森県議会議員

安藤はるみの

新・アジサイだより

SIDE-A

スクラムを
女性議員が
７人で
（はるみのワクワク川柳）

横断歩道の塗り直しを求める要望

流雪溝導水路調査

ホタテ調査

はるみの活動日誌

11 月 7 日　原子力防災訓練・むつ市
11 月 9 日　上十三地区議員団県交渉
11 日　弘前市文化功労章表彰式
16 日　青森県委員会主催党議員研修会
17 日　生健会総会挨拶
18 日　食と農を守る青森の会総会と学習会
19 日　安保法制廃止を求める19 日行動
20 日　県警に対し横断歩道の塗りなおし求める要望
21 日　建設委員会
22 日～12 月 8 日　定例県議会開会
23 日～24 日　東北文学研究会ｉｎ盛岡
27 日　津軽地区議員交流会、高規格道路建設道路整備促進青森県総決起集会
29 日～12 月 1 日　一般質問（今回はよしまた洋県議が行いました）

12 月 2 日　弁護士会主催憲法講演会
3 日　ホタテ調査
4 日　知事に対しオスプレイ撤去求める要望
5 日　質疑
6 日　常任委員会
8 日　定例県議会閉会
9 日　後山川からの久渡寺新寺町線流雪溝導水路及びホタル池調査

原子力防災訓練

上十三地区議員団県交渉

19 日行動

ほっとタイム

（県議団調査）

青森県内ホタテガイは漁獲量全体の33％を占め、青森県の経済を支えています。今年はそのホタテが色々な困難に直面しています。一つは東京電力福島第一原発の処理水の放出で、中国がホタテの輸入を全面的に停止したことで、青森県産のホタテは冷凍庫に山済み状態となり、県は国内外・県内外での買い手掘り起こしに力をつくしています。

もう一つの困難な自体は昨年に続く猛暑で、夏以降に育つはずだった稚貝の多くが死んでしまったこと。県は、議会に親貝確保のために４億円の基金造成、魚業者向けの融資の利子補給など総額５億５７０３万円の補正予算を提案し全会一致で採択されました。

この提案もあり、日本共産党県議団は平内町の田中光弘議員のご紹介で、ホタテ漁師の方からお話を聞く機会を得ました。平内町は60年前のホタテ漁の発祥の地だそうです。昨年も平内の稚貝が全滅したのだそうですが、陸奥湾の東側に位置する横浜町の稚貝を融通してもらい乗り越えたそうです。しかし今年は、横浜町を含め陸奥湾内どこでも死滅してしまったために、手に入らないとのこと。北海道から買い付けできないのか聞いてみましたら、北海道のホタテは最悪死に至る麻痺性貝毒の影響があり絶対に陸奥湾に入れられないとのこと。（陸奥湾のホタテは下痢性貝毒で死に至ることはない）それで、２～３月に産卵する親貝を確保して、産卵してから売ることになり、産卵後は体力もなくなり痩せて値は安くなるそうです。売るまで収入が入らないので皆さん早く売りたいのだが、陸奥湾ホタテの全滅を避けるために、基金を造成し、産卵後の親貝を売る際に支援金を交付することが決められたのです。

また、船を新調するのに７千万、メンテナンスに１千万、稚貝を回収する採苗器など膨大なお金がかかっているそうで、そうした分の返済にかかる費用や生活費若い人は子どもの教育費等がかかるため今回の融資は助かるとの声が寄せられました。同時に高水温に耐えうるホタテの研究など研究機関への期待や単年度の支援ではなく立ち直るのに要すると思われる３～４年の継続支援の要望も出されました。初めてホタテ養殖の仕組みと漁師さんのご苦労が分かりました。

発行：安藤はるみ　事務所　弘前市宮川２丁目３－２　電話０１７２－３５－７０２１　自宅０１７２－３５－２２７０
９：00～14：00（土・日・祝日左記時間以外は留守電対応）
Ｅメール　ando-harumi@theia.ocn.ne.jp　ホームページアドレス　http：// ando-harumi.com/
Ｘ（旧）Twitter　安藤はるみ　日本共産党　で検索　フォロワー４３８人

１１月の相談件数７件
ホームページアクセス数　69,455 件

日本共産党青森県議会議員
安藤はるみの 新・アジサイだより

SIDE-B

ご近所にアジサイだよりを5枚でも10枚でも配布して下さる方がありましたらご一報下さい。

12月6日　建設委員会で質問

青森空港有料道路無料化の見通しを質す

鈴木英宗道路課長「有料道路は、道路建設に係る費用を借入金でまかない、供用後に利用者から招集する料金によって償還する道路整備特別措置法に基づく措置。青森空港有料道路は、ジェット化に対応した新空港の改良に伴い有料道路制度を用いて整備したもの。」とし、建設当初30年間の返還予定であったが返還叶わず、10年先送りとなり２０２７年７月18日までに債務償還予定となっているがその見通しについて質すと

道路課長「整備費は61億円でありそのうち４５．７億円を借入金より賄い、その償還は進んでおり昨年度の借入残高は４．３億円となった。現時点では２０２７年７月18日の料金徴収期間満了までには債務償還完了できると考えてる」と答弁しました。

安藤は、現在往復有料道路を利用した場合、復路を１００円にする社会実験についての経緯と効果も質問。

道路課長「料金召集期間延長に伴うサービス向上策として２０１７年７月から実施し、その効果を確認するために実施しており、効果が確認できており４度の延長を経て、２０２５年３月31日まで続ける」と答弁。安藤は利用促進につながる努力を進め少しでも早く無料化にするよう求めました。

青森空港の航空機防除雪氷剤に対する対応について質す

飛行機は国際的な決まりで機体への着氷雪が翼やプロペラなどの重要表面に氷や雪が付着したまま離陸できない決まりがあり、青森空港でも主翼や尾翼に防除雪氷剤を散布しています。その防除雪氷剤は食品でも使われているプロピレングリコールを主成分としており、温度上昇により自然分解する物質ですが、栄養分が高いことから多量に流れ込むとＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）を高める要因とされているため対応策について質問しました。

常田明港湾空港課長「青森空港では、周囲が孫内川流域となっていることから毎年水質調査を実施しており、汚濁の程度を示す生物化学的酸素要求量いわゆるＢＯＤについても調査をしている。

調査結果は毎年孫内町会等の地元関係者に説明し理解を得ている。」とし「今年実施した水質調査の結果は、ＢＯＤの数値は環境基準で１リットル当たり５ミリグラム以下とされているところ、最大でも０．７ミリグラムとなっており、基準を満たしている」と答弁しました。

（仮称）西十和田トンネル計画は十和田八幡平公園の自然を壊すものであり、県は明確に反対すべき

（仮称）西十和田トンネルは、国道４５４号の津軽地域から内陸部を横断し、秋田県小坂町、十和田湖を経由して八戸市に向かう道路の途中、十和田湖西側の外輪山を全長３．９㌔掘るトンネルで、自治体から実現に向けての要望が出されています。

まず、最初に検討状況を質しました。

鈴木英宗道路課長「国道４５４号（仮称）西十和田トンネルについては、その大部分が十和田八幡平国立公園内に位置しているため、自然環境を保全する上でも多くの課題がある他、多額の事業費も想定される中で現在の交通量では費用対効果の面でも課題があると認識している。県ではこれまで費用対効果を検証するための交通量調査や地質等の各種調査、関係機関との協議を実施すると共に定期的に秋田県と情報交換を実施してきた。昨年８月県と国土交通省青森河川国道事務所などの関係機関による西十和田地域の道路整備に関する勉強会を、今年７月には十和田火山噴火時の避難道路としての効果に関する勉強会を開催し、技術面の課題整備や位置づける機能についての議論を進めている」と答弁しました。

実現に向けての対応を進めているのか質すと

道路課長は「前に進むか、進まないかではなくて、まず、きちんと調査、・検証分析しようとしている」としました。

十和田八幡平国立公園の自然環境を保全する上での課題を質すと

道路課長は「本トンネルは、当該改良区間の大部分が十和田八幡平公園における第１種及び第２種特別地域に位置していることから、当該地域におけるすべての改変又は開発行為は環境省の合意を得ることが必須となる。また、当該特別地域全域における環境省の基本方針として、カルデラ壁に新たなトンネルを含む車道も含まれますが、こちらの新設は認めないということが、十和田八幡平国立公園十和田八甲田地域管理計画書に記載されている。自然環境を保全するうえでのこれからの状況を踏まえ関係機関との勉強会を通じて今後の対応方針について検討してまいりたい」と答弁。

交通量の調査の結果は「国道１０２号の平川市切明地内における直近３か年の平日午前７時から午後７時までの12時間の交通量は令和３年度が４５６台、昨年度が２６８台、今年度が２０４台と、減少傾向が続いている」と答弁。ますます費用対効果という面からも慎重にすべきだと主張しました。

～はるみ事務所の風～

この辺の小学校では雪が積もるとスキーの授業があります。私も授業をうけましたし、スキー場で行われるスキー教室は楽しかったと記憶しております。が、一番心に残っているのはスキーを学校から家まで一人で持ち帰る辛さです。重たいスキーセットと、迎えに来てくれない親を呪いながらメソメソトボトボ帰るのです。そして親になって知るスキーにかかるお金のでかさ。うまくいけば買い替え２年に１回ですみますが、身長も手足もニョキニョキ伸びてる最中に、年数回しかのらない高額商品なんて、買いたくない！
買いますけど…。（葛原未来）